



天野進吾が視る。語る。今日のできごと。まつりごと。

## 回顧・久能沖国際空港

静岡空港の建設予定地が長い政治的思惑を脱して、島田に着地したのは昭和62年のことであった。その4月、市長に就任していた私は、それまでの空港誘致の激しい政争に些か呆れていた。

何故なら空港の建設地の選択は地域の陳情や政治的圧力によって決められる性格のものではなく、370万県民にとって最も利用しやすい場所こそ求められる適地と思っていたからである。

この政争が結果として陰に陽に、後の空港建設の事業計画の進捗を拒み、また「不要論」の火種の原因ともなっているのである。

さりとて20年後の今日にあっても未だその完成を見ないと当時誰も予想しなかったところである。その最大事由がバブル経済の崩壊に起因していることは論を俟たない処であるが、一方ではお隣の中部国際空港が、さらに神戸空港など本県よりはるかに後に企画した空港が既に運行されていることを思うにつけ、今更ながら惜しむのである。

こうした県の空港事業を横目に見ながら、私は本市の久能沖に注目していた。

・・・島田より遙かにいい立地条件」・・・

静岡海岸は駿河湾内で唯一遠浅の海岸である。

例えば清水港や焼津の海岸は岸壁から20メートル先では深さは50〜60メートル、ところが久能海岸では凡そ15メートルの深さの、しかも岩盤によって守られた格好の地質であるという。

悪戯どころもあって、私の提案のもと企画部の職員は地図上に空港の鳥瞰図や概略図を描き始めた。

用地問題でギクシャクしている島田空港を尻目に本市の空港構想は何時の間にか佳境に入り、「新幹線と結ぶ国際空港」として本格的構想にエスカレートしていったのである。

しかし、このドン・キ・ホーテにも似た構想は間

もなく県の空港担当者の知るところとなり、当時の長井企画部長から直接市長室に電話があった。「県が今、精一杯邁進している時、水を射すようなことはやめてほしい」

長井さんは私にとって高等学校の大先輩であれば、遠慮しながらもはっきりとクレームをつけてきた。勿論私達はこの企画が荒唐無稽のものであることを充分承知の上での試みであれば、企画部長の怨嗟にも似た忠告に私達は素直に従ったのである。

こうしてジャンボジェット飛びかう3000メートル級2本の滑走路をもつ構想は、幻と消えたが、暫しこれに携わった職員らの胸を躍らせたものであった。

「久能沖に空港が誕生すれば、東海沖地震の際にも巨大な防波堤の役割を担ったはずである」

久能沖構想はシャレにもならず終焉に終わったが、そのとき描かれた図面は今なお市役所のロッカーに眠っているはずである。

## 思い丑の樹「ジャカラランダ」

ロサンゼルスから北へ2時間ほど行くと、母栽培を主要な産業とするオックスナードという人口10万人ほどの小さな町がある。

平成の初め、オックスナード側の一方的な売り込みに押し切られ、私達は根拠の無い「友好都市」提携を結んでいた。

オックスナード市長は高齢にも拘らずエネルギーギッシュにこの地域の代表的な産業である母栽培の伸展を図るべく、石垣苺で有名な本市にその友好提携を積極的にアプローチしてきたのであった。

環太平洋ハイスクール野球大会がオックスナードで開催される折、本市からの代表チームの参加が求められ、このため静岡市内の高校野球大会を開催し、その優勝チームを米国に派遣するなど短期間ではあったが、友好を温めていた。

結果的には一度だけの訪問に終わったが、強い

要請から私もオックスナードを訪ねた。

サンフランシスコに向って一直線に伸びる道路は私達にカリフォルニアの広大さをまともに知らしめた。その時、横に座った家内が、突然、車窓から「あの樹なんて云う名前か、聞いて」と薄紫の花をつけた街路樹を指差した。

その際、同乗者が私の拙い英語の質問に答えてくれたはずだが、残念ながら記憶にない、家内はそれが「インド・チェリー」とその後も思い出しては言い張っているが、恐らく勘違いであろうと私は最近まで信じていた。

この度、県議会の北米視察で再度ロサンゼルスを訪れた。愈々明日は帰国という最後の訪問地への道すがら、突然私の目に10数年前のあやふやな記憶が脳裡に浮かんだ。

「あの時の街路樹だ」咄嗟に私は後部座席から最前列に座る添乗員にその木の名前を大声で尋ねた。突然の質問に釣られた12人の同僚も一斉に、窓越しに咲く紫の花に目をやった。

「ジャカラランダです。5月の終わりから6月にかけて咲きます」聞けばアフリカ原産の樹木で今が花の盛りですと添乗員は誇らしげに説明した。

樹木全体を覆うように花を咲かせる姿は、譬えて云えば日本の「桜」そのものであり、淡い紫の色合いは日本の景色にぴったり合致するものと思えたのだった。

同時に、私の何時もの癖だが脳裡には「青葉通りの歩道に咲くジャカラランダの並木」が描かれ、多くの市民の笑顔がその木々の下に溢れているのであった。10数年前、家内が聞いた「インド・チェリー」の名称は、必ずしも思い違ひとも云えないのかな、と私はロス市役所の玄関先に下車しながら思いを巡らしたのであった。

この顛末はさて置き、帰省後一ヶ月、そのジャカラランダの幼木が今、私の事務所の横に植えられている。

# 郷土の偉人 聖一國師を訪ねる

20年前になりますが、初めて群馬県の小さな町「尾島町」を訪ねたのは、町制30周年の記念イベントとして、「徳川サミット」なる企画に招待されたからであった。

「徳川」に因縁をもつ市町村長と一緒に集め、「尾島町」を「徳川の源流」と位置づけるための企画であった。

昭和63年、市役所を訪れた尾島町の教育長からこの企画への招待を受けた時から、私は万障繰り合わせてでも参加するつもりでいた。

その理由は司馬遼太郎がその著書のなかで「徳川」の名前の出展は「上州は徳川村」にあると書かれており、爾来、折あれば一度は「徳川村」を訪ねてみたいと思っていたからである。

司馬遼太郎によれば、松平竹千代(後の徳川家康)から遡ること17代も昔、松平家の源流はこの徳川村にあったという。

それ故、この町にある名刹「長楽寺」の住職の案内は極めて興味津々たるどころであった。ところがその説明が「徳川」に至る前に、住職の恰も縁者のような親しみと誇りをもって説明される「円爾」というこの寺の先祖に、私は関心を抱いていた。

「もしや・・・私は住職の説明が一段落したところで、その「円爾」とは「聖一國師」のことではないかと尋

しょういち

ねた。正直云って、その時まで私は「円爾・弁円」という名前は知らなかった。

葦科の奥「栃沢」に生まれた「円爾」は5歳で久能寺に預けられ以来、長い修行の人生に出ますが、その過程で長楽寺・栄朝の門下に入り、後に宋に渡り、杭州の(注) 經山寺に学んだ。

在宋6年、禅道と学問を修めた円爾は晴れて帰国するところとなり、九州の博多に到着、ここを第二の故郷とするのであった。

博多における円爾の貢献について、ここでは記載しませんが、福岡市立博物館には極めて大きなスペースで、『我らの「聖一國師」がもたらした功績の数々』が

展示されている。

その後、長楽寺に帰朝報告した折、故郷駿府に立ち寄り、足久保の地に宋より持参してきたお茶の種を蒔いたことが本市の茶産業の出発点となったと云われている。

「聖一國師」とは、禅道について、聖人の中の第一人者という意味であり、上洛した際、藤原道家からその称を賜ったのである。更にその道家が開いた京都の東福寺の開山第一世こそ、この聖一國師でもある。

歴史にその名を残す人物が極めて少ない静岡市であれば、そして本市茶業の始祖とも言うべきこの英傑「聖一國師」を私達はもっと顕彰すべきと思う次第である。

(注) 經山寺は中国の浙江省にある臨濟宗の道場、ここで作られた味噌が所謂「經山寺味噌」ですが、読みにくいために何時しか「金山寺」の文字を使うようになりました。

## 一寸一言

私の雑記帳から

「1个」という文字をご存知ですか

大学に入学した時、私は迷わずに第二外国語は中国語を選択した。

それは、以前から中国に深い関心を抱き、機会あれば中国5千年の悠久の歴史を訪ねてみたかったからである。

その授業が始まって間もなく、「1个」という中国文字にお目にかかった。勿論「1つ」の意味ですが、この文字を見たとき私は「ハッ」と気が付いたのでした。

幼い頃、近所の「八百銀」には「1个、10円」と書いた値札があったことを思い出したからである。

この「1个」の「个」は戦後中国において漢字の略字化が進み、「个」もまた「箇」の字の竹冠の部分さらに省略して作られた文字です。

これが日本においてはいつの間にか「一ケ」になってしまいました。

それは「个」の字の形がずれて、「ケ」になつて実用化されてしまったからです。ですから「一ケ」は「イツコ」と読んでください。

## 彩時記

### ふるとさの夏祭りに出かけよう

夏祭りのシーズンです。最近、昔からの氏神様のお祭りというより、商店街や地域が開催する住民のコミュニケーションのためのお祭りが増えているようです。それはそれで楽しいのですが、週末ごとに夜店市、盆踊り、花火大会と続くと、お祭り疲れ? をしてしまうような…。

ところで、夏祭りの思い出というと、幼い頃のふるとさを思い出す人が多いのではないのでしょうか。幼なじみの顔、縁日で買ったおもちゃ、花火や太鼓の音…。それは、記憶の底に眠っている、いつまでも変わらないノスタルジーです。

そこで今年の夏は、ふるとさへの帰省の日程を増やし、お祭りをゆっくり楽しんでみてはいかがでしょうか。お祭りの後は、幼なじみや恩師とゆっくり語り合う。昔住んでいた家や町内に足を運んでみる。懐かしくあたたかな思い出たちとふれあうことで、疲れがとれ、また明日から頑張ろう! という気持ちが湧いてくることでしょう。

## 感謝とお詫び

先月のSHINGO-SCOPEをFAXで送付する際、会員の皆様のご感想をお聞きすべく質問状を添えさせて頂きました。

処が返信のための当方のFAX番号が記載されておりました。本当に失礼致しました。にも拘らず多くの方から、温かなご意見と応援の言葉を頂き、誠に有難うございました。

これからも、随時ご意見等を事務所までお送りください、お待ちしております。

TEL 24517474 / FAX 24617463